

特別座談会

地域と共に歩む

西日本シティ銀行熊本営業部は今年12月、開設10周年を迎えました。これを記念して熊本営業部では使用済みペットボトルのキャップを使ったモニュメント制作を企画。崇城大学芸術学部の協力を得て、熊本市のイメージキャラクター「ひごまる」と同行の公式キャラクター「ワンク」をコラボさせたモニュメントが完成しました。熊本営業部の歩みやこのプロジェクトの意義について、学校法人君が淵学園崇城大学理事長の中山峰男氏、同行の取引企業でつくる「熊栄会」会長で株式会社双葉代表取締役社長の志賀泰友氏、同行熊本営業部長の米満雄二氏が語り合いました。

(司会は熊本日日新聞社事務局コンテンツ制作部長・中山智雄)



学校法人君が淵学園 崇城大学理事長 中山峰男氏



「熊栄会」会長 (株)双葉 代表取締役社長 志賀泰友氏

の会員企業171社が収集を続けており、人数にすると数万人規模になるかと思えます。私の会社では、特に若い社員が率先して取り組んでおり、野菜用の発泡スチロールをキャップ入れに再利用するなどのアイデアも出してくれています。

目的意識を持って団結

—最後に、この取り組みに期待することを一言ずつお願いします。

中山 今回のプロジェクトはSDGs推進だけでなく、地震からの復興を社会に向けて訴えていくものになりました。さまざまな媒体を通してこのモニュメントの情報を発信していくことがとても重要だと考えます。たくさんの方の目に触れることで、グローバルに発信できたらいいですね。

志賀 今回はSDGsと芸術の組み合わせで、素晴らしい作品が完成しました。以前、崇城大学の学生で起業された方と焼酎の製造過程で出る残りかすを肥料に混ぜるといった試みをしたこともあります。今後も若い力でSDGsの取り組みが広がっていくのではと期待しています。また、このプロジェクトが、地震を知らない世代の子どもたちが地震や復興について知るきっかけにつながっていくのではないかと思います。

米満 ペットボトルを捨てる時にキャップとボトルを分別することはあっても、何のために分別しているのかという目的意識があまりない方も多いかと思えます。今回はモニュメント制作という目的を伝えることで、皆さんの「協力しよう」という意識の高まりを感じました。熊本地震後の10年は、「熊本を取り戻そう」という目的に向かって動いてきました。一つの目的意識を持って行動していくということが、非常に重要だと感じています。



西日本シティ銀行熊本営業部の行員

ボトルキャップ「ひごまる」素晴らしい 中山氏
多くの企業がキャップ収集活動に協力 志賀氏
「SDGs×復興」モニュメントで発信 米満氏

中山 地震直後は大学を閉鎖し、約4000人の学生と教職員の安否の確認に約1週間かかりました。全員の無事を確認した後、学生たちの被害状況の把握に努め、家屋に大きな被害があった家庭の授業料を免除するなどの措置を取りました。間もなく授業を再開しましたが、久しぶりに再会した学生たちの笑顔には心を打たれるものがありましたね。そんな中、学生たちが積極的にさまざまなボランティアに取り組んでいたことには驚かされました。避難所でのボランティア活動だけでなく、県外出身の学生が自身の地元で募金活動をしたり、日本赤十字社の方たちのアシスタントに入ったりと、学生同士が連携しながら復興に取り組んでいました。事態が一段落した後のお礼状で彼らの活動を知ったときには、涙が出るほどうれしかったことを覚えています。



西日本シティ銀行 熊本営業部長 米満 雄二氏

—今回のプロジェクトの話が聞かれたとき、どのような印象を受けましたか。

中山 熊本城がモチーフの「ひごまる」を、ペットボトルのキャップで作るという発想が非常に面白いと感じました。若い人たちは柔軟性があり、私たちが考えるよりもはるかに豊かな発想力を持っています。かわいらしく素晴らしい作品ができましたと思います。

—今回のプロジェクトでは、西日本シティ銀行の取引企業でつくる「熊栄会」がキャップ収集に励んでおられると伺いました。

志賀 西日本シティ銀行と同じく、「熊栄会」の会員企業もSDGsに関する意識が非常に高いです。キャップ収集は誰でも簡単にできるので、各社とも積極的に取り組んでいます。現在、「熊栄会」

西日本シティ銀行×崇城大学芸術学部



サクラマチ クマモトで12月28日まで、その後は西日本シティ銀行熊本営業部で展示されます

「ひごまる」と「ワンク」の
モニュメント完成

モニュメント制作に関わった方々

崇城大学芸術学部美術学科教授・清島浩徳さん キャップを使ったモニュメント制作は初めてでしたが、見た人の感情を動かす力のある作品が出来上がったと思います。この10年の復興を振り返る一つのきっかけになればうれしいです。



崇城大学芸術学部美術学科4年・米澤藍さん 複数人が別々にパーツを作っていて、組み合わせると違和感のないよう仕上げるのが大変でした。イベントで子どもたちにも制作を手伝ってもらい、多くの人に元気を与えられる作品ができました。



西日本シティ銀行熊本営業部・一安富紀子さん 熊本地震以降、人とのつながりの大切さをより一層感じています。今回の取り組みは、お取引先の皆さまと親睦を深めるきっかけにもなりました。このつながりを、今後も大切にしたいと思っています。



ペットボトルキャップを使った「ひごまる」制作する崇城大学芸術学部の学生ら

崇城大学芸術学部美術学科4年・中川未来さん 「ひごまる」の腕の部分に本体を付けるとき、左右対称にするのが難しかったです。作品を見た人が、着実に復興が進む熊本に思いをはせるような作品になったと思います。



大東商事株式会社代表取締役・小原英二さん キャップ収集は誰もが手軽にできる取り組みです。小さなことで意識が大きく変わることを実感できたと思います。モニュメント完成後もキャップリサイクルが続くことを期待します。



西日本シティ銀行熊本営業部・日隠春斗さん キャップ収集は手軽に取り組めるため、お取引先の皆さまからも予想以上の個数をいただきました。お客さまと一緒に作り上げることで連帯感が生まれ、関係性も深まったように感じます。



ココロがある。カタエがある。 西日本シティ銀行

西日本シティ銀行 熊本営業部

〒860-0806 熊本中央区花畑町11-18 TEL 096-356-3611

窓口/9:00~12:00(平日月~金) 13:00~15:00(平日月~金) ATM/7:00~23:00(平日月~金) 8:00~21:00(土日祝)

※12:00~13:00は窓口を休業しております(ATMはご利用いただけます)。詳しくは上記の電話番号にお問い合わせください。

西日本シティ銀行 八代支店 共同店舗

〒866-0856 八代市通町1-12 TEL 0965-32-4131

窓口/9:00~12:00(平日月~金) 13:00~15:00(平日月~金) ATM/7:00~23:00(平日月~金) 8:00~21:00(土日祝)